

1 スタートカリキュラムとは

スタートカリキュラムとは、小学校に入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムである。

2 スタートカリキュラムが生まれた背景と経緯

課題

幼児期の教育が遊びや生活を通して総合的に学んでいくものであるのに対して、小学校以降では、教科などの学習内容を系統的に学んでいくものであり、学び方が異なる。そのため、子どもたちは、小学校での環境の変化に戸惑い、小学校に適応できない「小1プロブレム」といった問題が起こった。

平成 20 年の「小学校学習指導要領解説生活編」の中で、幼児期の学びから小学校教育への円滑な接続を目的としたカリキュラム編成の工夫として、スタートカリキュラムが示された。

平成 29 年 3 月改正の「学習指導要領解説」

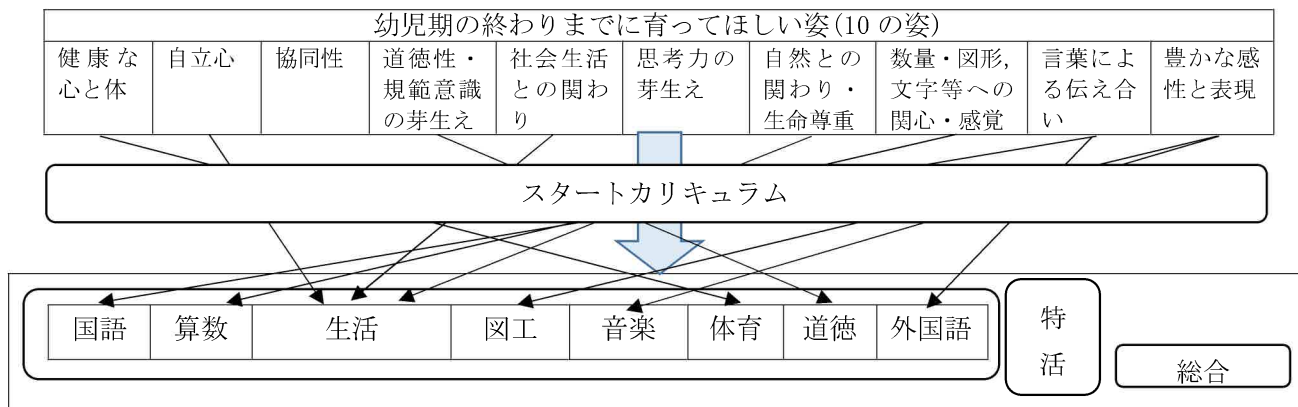
総則	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。
生活科	小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。
他教科	低学年の全ての教科等と生活科との関連を図り、指導の効果を高めていくこと。

スタートカリキュラムの必要性

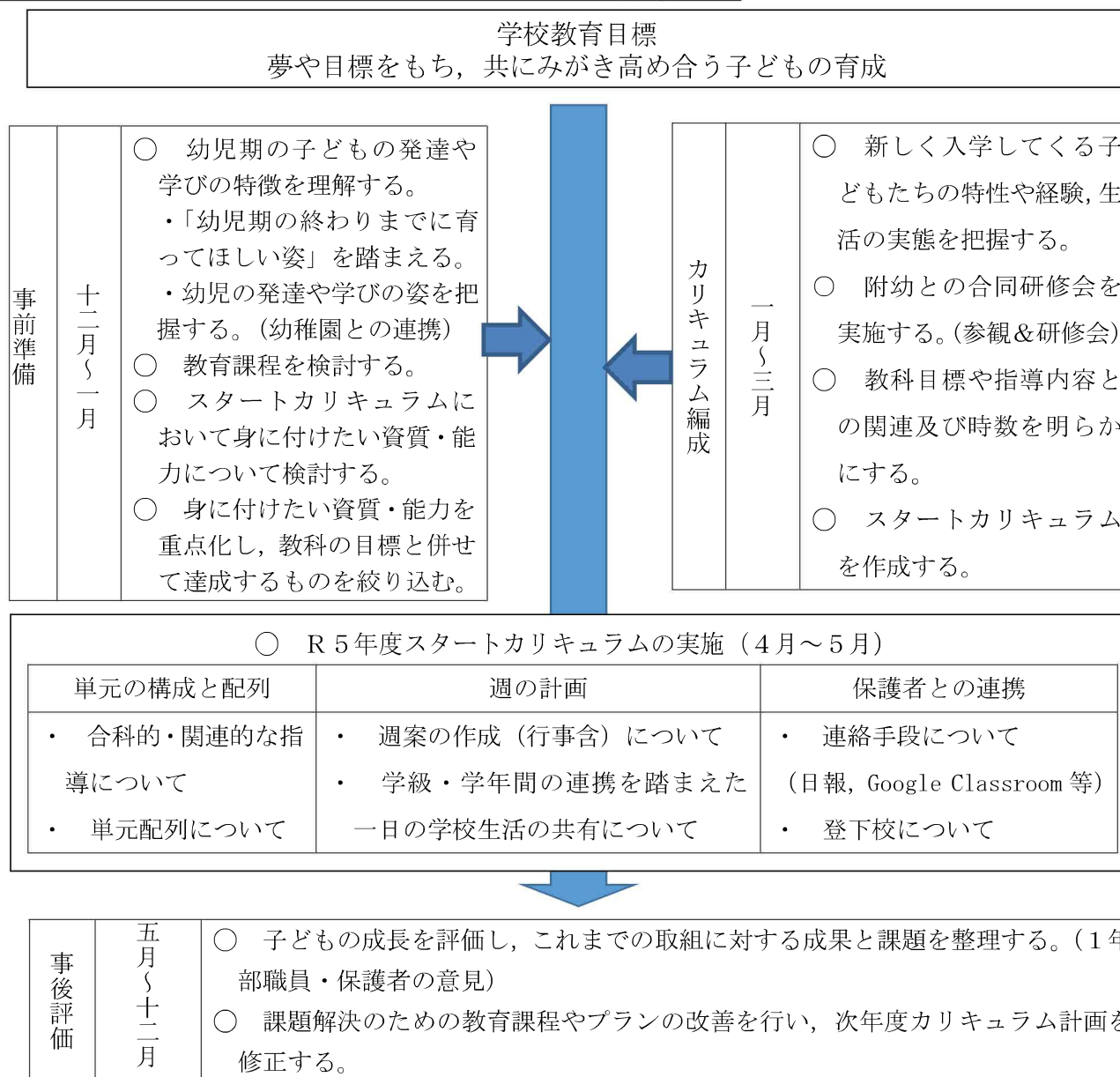
小学校低学年は、幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、児童の資質・能力を伸ばしていく時期である。そこで、小学校の入学当初においては、幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通じて育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、スタートカリキュラムを児童や学校、地域の実情を踏まえて編成していく必要がある。その中で、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行い、小学校へ入学した児童が、安心して学校生活を送るとともに、自信をもって成長し、学習者として確かに歩いていくようになるカリキュラムの編成が求められている。

3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校における各教科の関連

スタートカリキュラムを編成するにあたって、幼児期における学びの具体的な姿である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校における各教科の関連を明らかにすることで、幼児期の学びを踏まえた教科内容獲得を目指すことができる。



4 スタートカリキュラムの編成における全体構造図



4 スタートカリキュラム編成について

1 スタートカリキュラム編成について

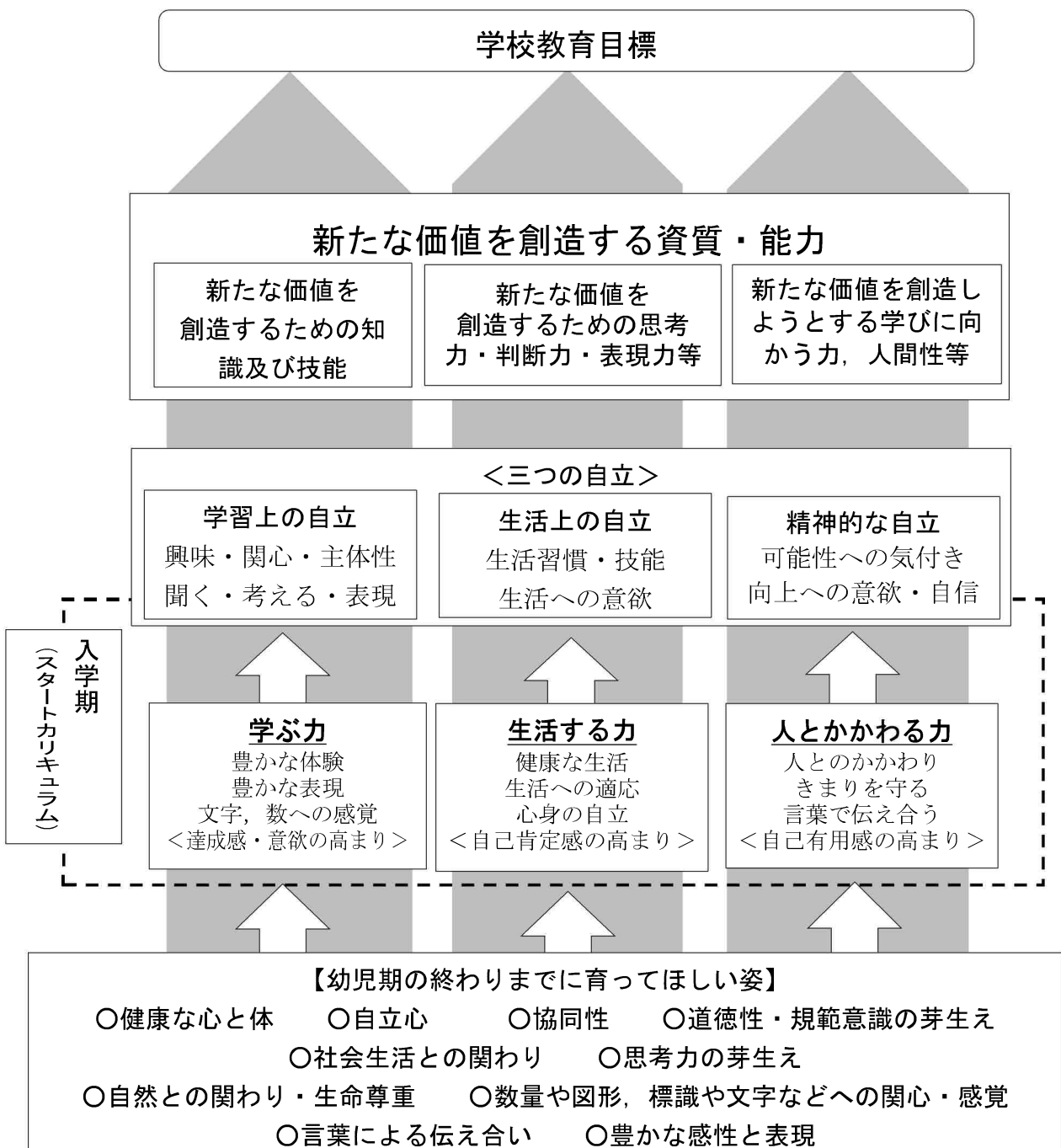
(1) スタートカリキュラムのねらい

学校生活や学習における様々な事象に直接触れ合う活動を通して、それらの存在やよさに気づき、「明日も学校へ行きたいな。」「もっと、こんなことをしてみたいな。」というような学校の生活や学習への意欲や自信を高める。

なお、基本的な生活習慣については、意欲を高めながら、適切に指導を行い、実態に応じて定着させる。

※ これはスタートカリキュラムのねらいであるので、どの教科等でも、このねらいを踏まえて、内容や方法を設定していく。

(2) スタートカリキュラムで目指す子どもの姿



(3) 本校におけるスタートカリキュラムの基本的な考え方

① 期間

週案作成の期間は、入学から4週間程度とする。しかし、幼小のなめらかな接続という観点から、期間だけで簡単に区切るものではない。1年担任は入学後4週が過ぎても、長いスパンの中でスタートカリキュラムのねらいや基本的な考え方を踏まえて指導を行う。

② スタートカリキュラムの核となる教科及び学習内容

生活科の特質から、生活科をカリキュラム上の核とする。具体的には、第1学年4～5月単元「たのしい がっこう」の小単元「がっこうたんけんをしよう」(内容(3))を核としたカリキュラムを編成する。

③ 指導上の考え方

学習活動を配列する際には、以下の3つの視点で学習を分類し、重点の置き方を考えていく。

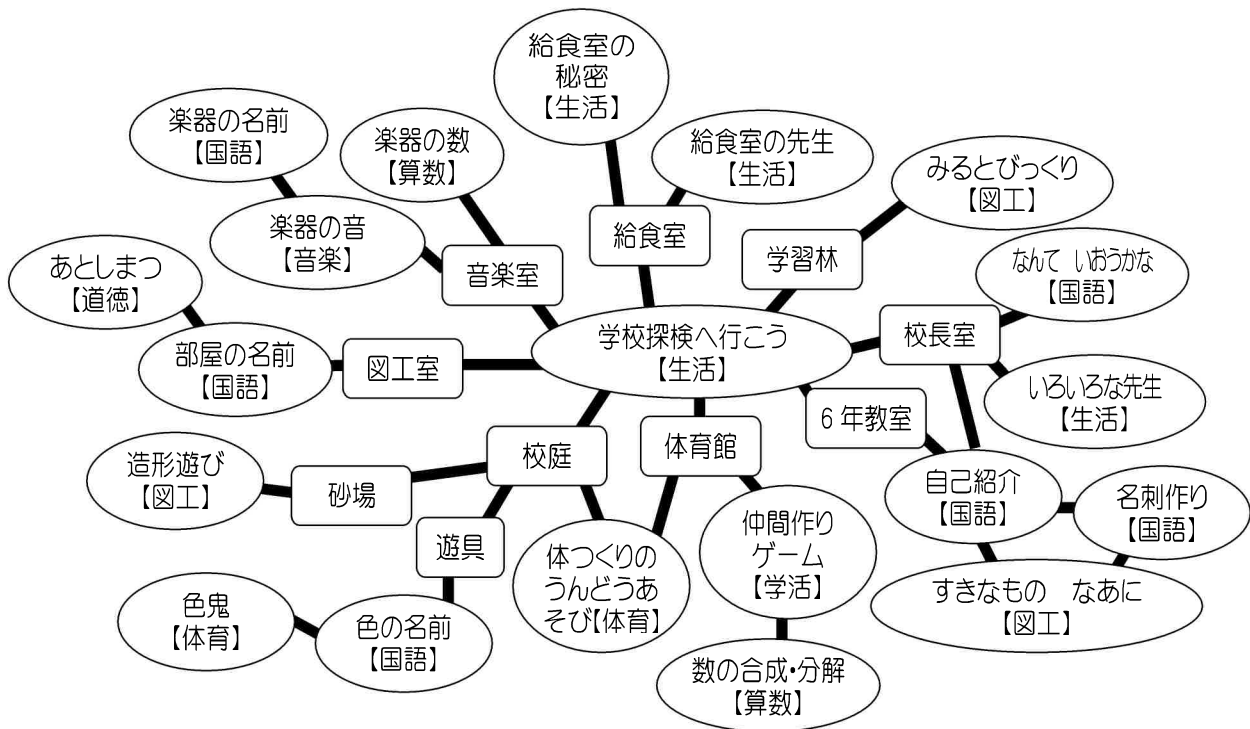
A. 人とのかかわり	人とのかかわりの中で、安心感をもち、新しい人間関係を築くことをねらいとした学習活動
B. 生活科中心の活動	合科的・関連的な指導による生活科を中心とした総合的・一体的な学習活動や基本的な生活習慣を身に付けることをねらいとした学習活動
C. 教科等の活動	教科等を中心とし、教科等の学習内容に触れる学習活動

時期	4月第1週～ 第2週	4月第3週～ 第4週	5月頃	6月頃	7月頃
ねらい	・学校生活に対する安心感や期待感をもち。	・学校生活に対する満足感や有能感をもち。	・主体性を発揮する。 ・人とのかかわりを広げる。		
学習の配列	A.人とのかかわり				
	B.生活科中心の活動				
	C.教科等の活動				

生活科を核として、他教科、道徳、特別活動などの内容を合科的・関連的に扱い、大きな単元を構成する。その際、関連させた教科双方の目標が達成されるよう配慮する。

<p>・ 合科的な指導とは 各教科等のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元または1単位時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの。</p>
<p>・ 関連的な指導とは 教科等別に指導するが、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導時期や指導方法について相互の関連を考慮して指導するもの。</p>

<生活科「学校探検をしよう」を核にした各教科等との合科的・関連的な指導による学習活動>



時間割は、児童の実態に合わせて弾力的に設定するようにする。特に、入学当初は、登校してからの時間や朝の会から1時間目の時間の使い方について、幼児期の生活リズムを参考に、幼児期の生活に近い生活をつくるのが大切である。また、この時期の児童の発達の特徴に配慮し、10分から15分程度の時間で時間割を構成したり、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように学習活動を2時間続きで設定したりすることも考えられる。

④ 週案の作成

学級担任は、次項の週ごとのテーマや授業プランを見ながら、より効果的な指導ができるよう、週ごとの時間割計画（週案）を作成する。その際、児童の生活リズムや一日の過ごし方を意識して示すなど、学び手である子どもを中心にする内容の設定や組み合わせをデザインしていくことが重要である。

週案の作成によって、保護者も1週間の学びの見通しをもつことができるため、子どもと共に、保護者への安心感へもつながっていく。

⑤ 日報の作成（Google クラウドの活用）

学級担任は、保護者や子どもたちに対して、学校での子どもたちの学習の様子や、次の日の学習への見通しをもつことができるようにするために、日報を作成する。その際、週案をもとにしながらか、子どもの実態に合わせて時間割を計画していくこととする。また、日報に関しては、Google クラウドも有効に活用していく。

(4) 週ごとのテーマ及び目標、学習指導のポイント

スタートカリキュラムの過程で、段階的に学校生活に適応させていくために、期間である4週間は、週ごとのテーマ及びねらいを設定する。そして、それらをもとに、学習指導のポイントを置く。

週	テーマ（各教科等を貫くもの）		
	学ぶ力	生活する力	人とかかわる力
	学習指導のポイント		
第一週	やさしさいっぱい ふぞくしょう！（安心感）		
	<ul style="list-style-type: none"> 先生の話を聞く。 「はい。」と返事ができる。 小学校の施設に興味をもつ。 自分の名前を先生や友達に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつができる。 トイレを正しく使う。 靴箱やロッカーの場所や使い方を知る。 朝や帰りの準備を知る。 登下校の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任の先生を知る。 先生や友達とあいさつをしたり、話をしたりすることができる。
<p>○ <u>生活や学習への安心感をもたせるために、必要な基本的な習慣を、子どもの意欲を大切にしながら指導していく。</u></p> <p>○ <u>学校内における多様な人・もの・こととの出合いを豊富にする。</u></p>			
第二週	たのしさいっぱい ふぞくしょう！（期待感）		
	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に座って学習する。 校内の施設を知る。 小学校で見付けたものを絵や言葉で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食の準備の仕方を知る。 廊下や階段の正しい歩き方が分かる。 朝や帰りの準備が自分でできる。 整列することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と仲良く話したり、遊んだりする。 学年部や専科の先生を知る。
<p>○ <u>一週目に出合った人・もの・ことに対するその子なりのよさを実感するために、じっくり・ゆっくり・たっぷりとかかわることができるようにする。</u></p>			
第三週	いいこといっぱい ふぞくしょう！（満足感）		
	<ul style="list-style-type: none"> 発表の仕方を知る。 文字や数に対する興味をもって学習に取り組むことができる。 友達と協力して学習する。 教科等の学習を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間への意識をもつ。 学習や給食の準備が自分でできる。 自分の持ち物や脱いだ服を片付けることができる。 日直や係などの役割を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や先生、上級生とあいさつをしたり、話したりすることができる。 いろいろな先生に、自分からあいさつすることができる。
<p>○ <u>人・もの・ことに対するその子なりのよさを広げていくために、活動を個別化したり友達との交流活動を設定したりする。</u></p>			
第四週	もっとできるよ ぼく・わたし！（有能感）		
	<ul style="list-style-type: none"> 友達の発表を聞いたり、自分が発表したりして学習に参加することができる。 学校の中で見付けたものを文字や数字を使って表そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活及び主な学習習慣ができるようになる。 ルールを守って安全に登下校することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな友達と仲良く接することができる。 みんなのきまりやルールを理解して守ることができる。
<p>○ <u>自分の変容や成長に気付かせるために、振り返り活動を充実させる。その際、振り返るための具体物を準備するなど、子どもの実態に応じた指導を行う。</u></p>			

※ 上記の目標は、スタートカリキュラムの目標であり、どの教科も、この目標を踏まえて、内容や方法を具体化していく。

(5) スタートカリキュラムで身に付けさせたい力

身に付けさせたい力		1 週目	2 週目	3 週目	4 週目	評価
学ぶ力	元気よく「はい」の返事をする。	●	●			
	先生の話の聞くことができる。	●	●	●	●	
	進んで、学習活動に参加することができる。	●	●	●	●	
	指示された活動を行うことができる。	●	●	●		
	文字や数に対する興味をもって、学習に臨むことができる。		●	●	●	
	友達の発表を聞いたり、自分が発表したりするときの約束を守って、発表し合うことができる。		●	●	●	
	友達と協力して共通の学習課題に取り組むことができる。		●	●	●	
	45 分間教科等の学習活動に参加し続けることができる。			●	●	
生活する力	自分から進んであいさつをすることができる。	●	●			
	席を立つときは、自分の椅子を入れて移動する。	●	●			
	トイレを正しく使うことができる。	●	●			
	出席番号を理解し、決められた靴箱やロッカーを使うことができる。	●	●			
	休み時間に、トイレ、水飲み、手洗い等の必要なことを済ませることができる。	●	●	●		
	安全な移動の仕方を理解し、正しく廊下歩行することができる。	●	●	●		
	朝の準備や帰りの準備を自分ですることができる。	●	●	●		
	交通ルールやマナーを守って、安全に登下校ができる。	●	●	●	●	
	〇〇順で整列することができる。		●	●	●	
	靴のつま先をそろえることができる。		●	●	●	
	ハンカチ・ちり紙を自分でもってくる。	●	●	●	●	
	安全に気を付けて遊ぶことができる。		●	●	●	
	決められた場所で着替え、脱いだ衣服等の整理整頓ができる。		●	●	●	
	給食の準備や後片付けをすることができる。		●	●	●	
ロッカーや引き出しの整理整頓ができる。		●	●	●		
時計を見て行動する等、時間を意識して行動することができる。			●	●		
人とかわる力	担任は、学級みんなの先生であることを理解できる。	●	●			
	学年の先生方は、学年みんなの先生であることを理解できる。	●	●			
	学校にはいろいろな先生がいることを理解できる。	●	●	●		
	学校の先生方と、あいさつをしたり話をしたりすることができる。	●	●	●	●	
	友達と話したり遊んだりすることができる。		●	●	●	
	自分の体調の変化や困っていることを担任や学年部、養護教諭などに申し出ることができる。		●	●	●	
	上級生とふさわしい関係で接することができる。			●	●	

(6) 生活科を核としたスタートカリキュラムの具体的な構想

週	生活科の学習活動	各教科等との関連と指導方法例
第1週目	<p>1 学校探検をしよう(学級一斉)</p> <p>○ 学級全体で生活に必要な場所を見て回り、トイレの場所や仕方等、基本的習慣を知る。</p> <p>・トイレや着替えができるようになったよ。 ・もっと、いろんな場所へ行きたいな! ・先生に自分からあいさつできたよ。</p>	<p>【学級活動との関連的な指導】</p> <p>○ トイレの使い方、登下校の仕方、給食の準備・片付けの仕方、掃除の仕方などについては、実際の場所、実際の物を使って具体的に指導をする。その際、適応指導にならないように、施設や場所が何のためにあるのか問いかけながら探検する。</p> <p>【道徳「あかるいあいさつ」との関連的指導】</p> <p>○ 探検の際に、学校の先生や保護者に出会ったときに、どのような挨拶をすればよいのか、道徳「あかるいあいさつ」と関連的に指導する。</p> <p>【体育科「固定施設遊び」との合科的指導】</p>
第2週目	<p>2 探検して、見つけた場所やものであそぼう。</p> <p>・校庭には大きなジャングルジムがあるよ。早く遊びたいな。 ・タイヤ跳びして楽しく遊べた。 ・学習林でおもしろい形の葉っぱを見つけたよ。細長くて、うさぎの耳みたいだね。 ・魚みたいな石にパスで色を塗ったら本物みたいだね。</p>	<p>○ 生活科の遊びと体育の固定施設遊びを合科的に扱う。その際、遊具遊びの狙いも踏まえて、教師が先導して、うんていや鉄棒などに全員がチャレンジできるようにする。</p> <p>【図画工作科「みるとびっくり」との関連的指導】</p> <p>○ 校庭や学習林を探検して見つけた自然物を使って見立て遊びをしたり、教室に持ち帰って自然物を活用した作品を作って紹介したりできるようにする。</p> <p>【英語活動「Hello, English!」との関連的指導】</p> <p>○ 探検の際に、ALT(外国語指導助手)に会ったら、どのようなコミュニケーションを図ればよいか考えさせる。また、学校には様々な所に英語があることに気付かせ、言葉の面白さについても考えられるようにする。</p>
第3週目	<p>3 自分の行きたい場所を探検しよう。</p> <p>・校長先生から名刺をもらったよ。うれしいな。私も、名刺を作って自己紹介してみたいな。 ・図工室には、面白い道具がたくさん置いてあったよ。何に使うのかな。 ・校長室にかっこいい舟の模型があった。絵に描いて友達に教えたいな。</p>	<p>【図画工作科「すきなものなあに」との関連的指導】</p> <p>○ 学校探検で見つけたもののうち、一番気に入った物の絵を描く活動を、図画工作科と関連的に扱う。</p> <p>【国語科「こんなものみつけたよ」と関連的指導】</p> <p>○ 探検して見つけたものの絵を使って、自分が見つけた物を友達と紹介し合う。その際、話し方や聞き方については、国語の学習内容と関連を図って指導する。</p>
第4週目	<p>4 見つけたことを紹介しよう</p> <p>・保健室には、ベッドが3台あったよ。具合が悪くなった人が休めるようにベッドがあるんだね。 ・給食室には、ものすごく大きなお鍋があったよ。附属小のたくさんの方の分の給食を作るからあんなに大きなお鍋が必要なんだね。</p>	<p>【国語科「どうぞよろしく」との関連的指導】</p> <p>○ 国語科の学習の中で名前や学級名、自分の好きなものなどを書いた名刺を作り、学校探検の際、出会った先生方に名刺を活用して自己紹介する活動を行う。</p> <p>【算数科「10までのかず」との関連的指導】</p> <p>○ 探検で見つけた物の数を数字で表すなど、学校探検で見つけたことを表現する活動に生かすことができるように指導する。</p> <p>【国語科「わけをはなそう」との関連的指導】</p> <p>○ 探検で見つけた人・ものなどの仕事や役割を考え、どうしてそのような仕事や役割があるのか理由を付けて友達に紹介することができるように指導する。</p>

※ ここに示した指導方法は、あくまで例であり、実際は、学級担任が子どもの実態に応じて柔軟に指導を行う。

※ 教科等との関連を図ることが目的化しないよう、必ず双方の教科等のねらいを踏まえる。